

令和6年度「学校を核とした地域力強化プラン事業」成果報告会 開催報告

- 1 趣旨 標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の発表や「地域とともにある学校づくり」に関する情報交換を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後も「みつめなおして、よりよく」していくための方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 参加者 111名(来場 61名、オンライン 50名)
(1)地域学校協働活動 関係者
(推進員、地域コーディネーター、地域学校協働活動リーダー、ボランティア等)
(2)学校運営協議会(コミュニティ・スクール)関係者(協議会委員等)
(3)家庭教育支援員、家庭教育関係者、子育て支援関係者
(4)各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者(行政担当者等)
(5)公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
(6)県および市町の社会教育委員
(7)社会教育士
- 4 日時 令和7年(2025年)1月17日(金)13:30~16:30
- 5 会場 滋賀県庁東館7階 大会議室
- 6 内容 ・事例報告
① 栗東市立栗東中学校 栗東中学校地域学校協働本部
「学校、地域の人々の思いと努力をつなぐ持続可能な取り組みを求めて
『栗中サポーターズクラブ』の活動」
栗東中学校校長 住吉 由加 氏
栗東中学校学校運営協議会委員 栗中サポーターズクラブ代表 吉永 義則 氏
② 甲良町立甲良西小学校 甲良西小学校地域学校協働本部
「学校運営協議会と地域学校協働本部との連携・協働による
『子どもの主体的な学び』と『地域のつながり』について」
甲良西小学校校長 寺田 喜生 氏
甲良西小学校地域学校協働活動推進員 小島 つや子 氏
・情報交換会
・講評・全体総括
「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会 座長 伊藤 照男 氏
(滋賀県CSアドバイザー)

7 報告・意見交流・講評の概要

(報告)

栗東市立栗東中学校では、生徒支援ならびに文部科学省の「学校支援地域本部事業」の指定を受けたことを背景に、栗中サポーターズクラブが設立



された。また約20社からの企業支援である栗東ブースタークラブを含め、学習環境や環境整備支援、学校行事支援などを、栗東中学校地域学校協働活動と、コミュニティ・スクールとの一体的推進を行えるよう組織体制を構築している。学校内に地域の大人が入り、生徒のボランティア活動とのタイアップや生徒の見守り活動など、継続して実施することで意欲的に活動する生徒の育成や地域コミュニティの活性化につながっている。エコロジー委員会での野菜栽培や起業体験、校長と地域コーディネーターによる通信発行など、学校と地域をつなぎ、持続可能な取組に向けた活動を展開している。

甲良町立甲良西小学校では、児童が考えた『毎日学校へ行きたい！』と、どの人も思える西小を目指して」を全校テーマに掲げ、笑顔あふれる西小学校と人との縁を掛け合わせて、コミュニティ・スクールの名称を「笑nishi」としている。子どもの願いや発想を重視し、地域ボランティアの協力を得て様々な取組やサポートを行っている。全校遠足や地域での見守りで、児童・地域双方に「見たことがある顔」を一人でも多く作る関わり方について、コミュニティ・スクールだよりの発行や学校での取組を町議会だよりや新聞記事に掲載してもらい、地域内外に広く周知できる工夫を展開している。また地域学校協働活動推進員を中心に、地域ボランティアの募集や地域コーディネーターの業務軽減など、児童・地域・教職員がつながる仕組みづくりを行っている。



(講評)

学校と地域において関わる人が当事者となり、志を持って集まる人財を学校に巻き込むことで、地域の強みを学校に生かすことができる。コミュニティ・スクールの推進する上で、「どんな子どもに育てたいのか」を共有し支援から協働へと変化させることや、児童の学びをつなぎ、学校支援ボランティアをどうつなぐのかを意識した組織づくりが重要である。コミュニティ・スクールの進める上で、原点に立ち返り「みつめなおして、よりよく」していくための方策を学校運営協議会での熟議をとおして行っていくことで、地域とともにある学校づくりの好循環が生まれていく。

8 参加者のアンケートより

・地域との連携により、学校環境の変化や子どもたちの変化、人とのつながりを深められたという事例が、具体的でわかりやすかった。

・地域力(社会教育)や縦のつながりが、コミュニティ・スクールにおける支援から協働へ向かうための大きな役割を担っていると思った。

・学校評議員会の延長ではなく、学校運営協議会として組織や活動について今後考える機会となり、有意義な時間であった。

・「子どもは卒業しても、親(地域)は卒業しない」という言葉が、印象的だった。また、子どもの思いや願いを学校運営協議会や地域学校協働活動に結びつけてこそ、一体感が生まれるのだと感じた。

・情報交換会では、いろいろな立場の方々と共通した内容について幅広く話すことができた。地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員など、キーパーソンやその役割がいかに重要なものであるということを感じた。

・事例報告いただいた内容が、自校の活動と重なることが多く、比較して足りない点に気づくことができた。支援から協働へ、活動を変化(向上)させていく方法を、今後も考えていきたい。

